

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
教育研究評議会（第58回）議事要旨

1. 日 時 平成30年11月29日（木）10：45～13：20
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、大隅評議員、小川評議員、國中評議員、郷評議員、小間評議員、佐藤評議員、玉尾評議員、長谷川評議員、花輪評議員、松本評議員、村上評議員、徳田評議員、金子評議員、常田評議員、竹入評議員、山本評議員、井本評議員、川合評議員、渡部評議員、室賀評議員、上野評議員、岡本評議員
(陪席者)
二宮監事、竹俣監事
(事務担当者)
岡田総務課長、高田企画連携課長、鈴木財務課長、宮内施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 西山管理部長、岡崎統合事務センター 棚木事務センター長及び三好財務部長 他
(研究成果発表者)
加藤 晃一 教授（生命創成探究センター長）
4. 配付資料
 - 1 教育研究評議会（第57回）議事要旨（案）
 - 2-1 大学共同利用機関法人自然科学研究機構が設置する大学共同利用機関の長の選考の手続き及び任期等に関する規程
 - 2-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構大学共同利用機関長選考委員会規程
 - 3-1 名誉教授称号授与候補者名簿
 - 3-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構名誉教授称号授与規程
 - 4-1 チリ観測所の組織改編について
 - 4-2 研究部の組織改編について
 - 4-3 国立天文台組織図新旧対照表
 - 5-1 機構における役職員給与の改定について（案）
 - 5-2 平成30年人事院給与勧告の骨子
 - 6 自然科学研究機構における情報セキュリティ対策とその強化について
 - 7-1 平成29年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）
 - 7-2 平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果 大学共同利用機関法人自然科学研究機構
 - 7-3 国立大学法人・大学共同利用機関法人の平成29年度に係る業務の実績に関する評価について（所見）
 - 7-4 国立大学法人等の平成29年度評価結果について
 - 8-1 平成29年度自己点検・自己評価、外部評価について（国立天文台）
 - 8-2 平成29年度自己点検・自己評価、外部評価について（核融合科学研究所）
 - 8-3 平成29年度自己点検・自己評価、外部評価について（基礎生物学研究所）

- 8-4 平成29年度自己点検・自己評価、外部評価について（生理学研究所）
- 8-5 平成29年度自己点検・自己評価、外部評価について（分子科学研究所）
- 9 研究大学コンソーシアムシンポジウム（第2回）について

5. 議事等

議事に先立ち、事務局から定足数の確認があった。

1) 前回議事要旨（案）について

前回教育研究評議会（第57回）の議事要旨（案）（資料2）が了承された。

2) 核融合科学研究所長候補者の選考について

事務局から、資料2-1及び資料2-2に基づき、関係規程の説明があった。

小森議長から、核融合科学研究所長選考委員会より、竹入 康彦 氏（現 核融合科学研究所長）を次期核融合科学研究所長候補者（任期：2019年4月1日～2021年3月31日（2年））として推薦があった旨説明があった後、所長選考委員会委員の小間評議員、佐藤評議員、長谷川評議員及び小川評議員から選考理由等について説明があった。

各評議員から特段の意見等はなく、これを踏まえて機構長（議長）が決定する旨の表明があった。

3) 基礎生物学研究所長候補者の選考について

小森議長から、基礎生物学研究所長選考委員会より、阿形 清和 氏（現 学習院大学理学部教授）を次期基礎生物学研究所長候補者（任期：2019年4月1日～2023年3月31日（4年））として推薦があった旨説明があった後、所長選考委員会委員の郷評議員、長谷川評議員及び村上評議員から選考理由等について説明があった。

各評議員から特段の意見等はなく、これを踏まえて機構長（議長）が決定する旨の表明があった。

4) 生理学研究所長候補者の選考について

小森議長から、生理学研究所長選考委員会より、鍋倉 淳一 氏（現 生理学研究所副所長）を次期生理学研究所長候補者（任期：2019年4月1日～2023年3月31日（4年））として推薦があった旨説明があった後、所長選考委員会委員の村上評議員、郷評議員及び長谷川評議員から選考理由等について説明があった。

各評議員から特段の意見等はなく、これを踏まえて機構長（議長）が決定する旨の表明があった。

5) 名誉教授の称号授与について

事務局から、資料3-2に基づき、機構の名誉教授の称号授与に関する関係規程の説明があった後、資料3-1及び審議終了後回収資料に基づき、名誉教授称号の授与候補者の所属する機関の評議員から説明があり、審議の結果、資料3-1（名誉教授称号授与希望者名簿）のとおり了承された。

6) 国立天文台の組織改編について

常田評議員から、資料4-1から資料4-3に基づき、国立天文台の組織改編について説明があり、審議の結果、案（資料4-1から資料4-3）のとおり了承された。

7) 機構における役職員給与の改定について

徳田評議員から、資料5-1及び資料5-2に基づき、機構における役職員給与の改定について説明があり、審議の結果、案（資料5-1）のとおり了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 国家公務員の給与と同様に給与の改定をした場合に、翌年度以降、その分について国からの予算に反映されるのか。
- 国からの予算措置はない。なお、今回の改定に伴う見込額は約2,600万円であり、既存の予算で対応することになる。
- 消費税率が上がった場合なども同様に予算措置が無いとすると、非常に大きな問題ではないか。
- ご指摘のとおり問題である。基盤的な運営費交付金は、毎年度減額されており、厳しくなっている。未定ではあるが、運営費交付金について評価の対象となる部分が10%になる可能性もあり、今後、更に厳しくなっていくと考えている。

8) 自然科学研究機構における情報セキュリティ対策とその強化について

金子評議員から、資料6に基づき、自然科学研究機構における情報セキュリティ対策とその強化について報告があり、意見交換が行われた。

（主な意見等は以下のとおり）

- 外部の機関が自然科学研究機構や同様の組織について、全体的に対応するような仕組みは無いのか。
- 文部科学省の体制も整備が進められているとともに、CSIRTについては、全国的なネットワークを形成している。また、情報の重要度の格付けについては総研大も含めて4機構連携で検討するなど、共通化を図っている。
- 情報セキュリティ対策の経費が増えていくことについて、どのように対応しているのか。
- リスクアセスメントを実施し、重要なもののみを保護することにより経費

を抑えている。

- 大学では、教員のパソコンに学生の個人情報が入っていることがあり、その漏えいに対して非常に気を使っているが、機構ではどのように対応しているか。
- セキュリティポリシーを定めて対応している。例えば、ノートパソコンを持ち出す際は、パスワードの設定やハードディスクの暗号化などを義務付けている。各職員がポリシーをきちんと守ることが重要であり、現在、その点の徹底を図っているところである。
- マルウェアやウィルスの感染は、メールの添付ファイルによることが多いが、添付ファイルを無くすような対策は行っているのか。
- クラウドの活用が有効と考えており、導入を検討している。運営している業者の約款と機構の機密保持の考え方を共有することが必要であるが、約款が頻繁に変更されるので、この点への対応が必要と考えている。

9) 平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果について

金子評議員から、資料7-1から資料7-4に基づき、平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

10) 平成29年度自己点検・自己評価、外部評価について

常田評議員、竹入評議員、山本評議員、井本評議員及び川合評議員から、資料8-1から資料8-5に基づき、各機関の平成29年度自己点検・自己評価、外部評価について報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 基礎生物学研究所において大学院生のメンタルヘルスに関する説明があったが、どのような体制で対応しているか。
- 大学院生については、以前は問題を抱えた際に相談するような体制であったが、現在は全ての大学院生が年に1回は臨床心理士の面接を受け、問題を抱えている大学院生の場合はさらに相談するような体制としている。
- 機構全体として高い評価を受けている各研究所間の共同研究について、各研究所の評価項目に挙げていない点があったのではないか。
- 現在、機構全体の外部評価を実施しているところであり、ご指摘の点について、アピールしていきたいと考えている。
- 大学共同利用機関として共同利用・共同研究の部分を評価項目としたほうが良いのではないか。
- 核融合科学研究所では、一昨年度は共同研究・共同利用システムそのものを評価の対象とし、また昨年度も共同研究・共同利用の進捗を評価の指標としており、大学共同利用機関としての役割を評価してもらっている。
- いただいたご意見について、機構全体として検討していきたい。
- 研究所ごとに視点が違っていることは当然だと思うが、他機関の評価の良いところを参考に評価を実施してはどうか。
- いただいたご意見について、機構全体として検討していきたい。

1 1) 研究大学コンソーシアムシンポジウム（第2回）について

金子評議員から、資料9に基づき、研究大学コンソーシアムシンポジウム（第2回）について報告があった。

1 2) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、生命創成探究センターの加藤 晃一 センター長から「新たな研究拠点、生命創成探究センター」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上